

## 2020年度 第3四半期決算 主要な質問に対する回答

**Q: 2020年度第3四半期の売上収益の実績について総括していただけますか？**

A: 第3四半期累計の油圧ショベル需要は、中国や日本を除き主要地域で前年同期を下回りました。また、マイニング機械も鉱山会社による設備投資の抑制が続いており、特に中小規模鉱山会社からの需要が引き続き減少しています。

このような状況下、当社の売上収益は、油圧ショベル需要の減少や、資源価格の低迷等による鉱山の設備投資抑制に伴うマイニング新車販売や部品サービスの減少、および前年度と比較し円高基調で推移した為替の影響などによって、当社が注力するバリューチェーン事業の内レンタル・中古車売上は前年比で増加となったものの、全体としては前年比19%減の5,587億円となりました。

**Q: 競争が激化している中国において、現在の状況および今後の戦略を教えてください。**

A: 中国では、国産メーカーのみならず当社のような外資メーカーも巻き込んだ価格競争がさらに厳しくなっています。その中で、当社としては単純に価格や販売条件の緩和を行ってシェアを追う事は、当社のブランドと既存優良顧客層への悪影響があるだけでなく、業績にもつながらないと判断していますので、従来の方針を変更していません。

このような状況下、当社はこれまでの多機能で高価格帯のプレミアムモデルに加え、中国市場向けに10月より6tクラス、12月より12t、20tクラスで土木に特化した油圧ショベルを開発し、発売を開始しました。中国市場のボリュームゾーンの個人で建設事業に参入されるお客さまのニーズに応じて、都市土木に最適な仕様・構造と、高いコストパフォーマンスを実現しています。加えて、昨年度に開始し順調なレンタル、部品サービス・中古車・ファイナンスなどのバリューチェーンの強化を加速中であり、各地の代理店と一体となった販売改革によって当社の中国事業をしっかりと強化していきます。

**Q: 2020年度見通しについて、第4四半期の業績予想の達成の見通しを含めて総括していただけますか？**

A: 油圧ショベル需要は、第3四半期累計では北米・欧州・アジアなどの主要地域において対前年同期比較で減少しましたが、中国で需要が大幅増となったため、前回中間決算(10/27)時点の見通しから上方修正して世界全体で約20万1千台(前年比7%減)になると見込んでいます。

業績見通しにつきましては、前回公表値を据え置き、売上収益は7,700億円(前年比17%減)、調整後営業利益は400億円(同48%減)、親会社株主に帰属する当期利益は200億円(同51%減)としております。

第4四半期は、中国の春節後のセールスシーズンや欧米のセールスシーズン前の代理店在庫補充があり、受注済みのマイニング向け新車の売上が集中し、これらの結果、在庫低減を図り、税率の改善も含めて大幅な利益率の改善を織り込んでいます。また、引き続き、不急投資案件の計画先送りなど、引き続きコスト管理の強化にも努め、業績見通しの達成へグループを挙げて取り組みます。

業績見通しの前提となる1月以降の為替レートは、米ドル105円、ユーロ120円、元15.0円、豪ドル72円を想定しており、これは前回の中間決算時点から修正はしていません。

**Q: 今後の需要環境をどのように想定していますか？**

A: 2020年度は、中国が世界全体の需要をけん引して、全体的に当初想定していたよりも早く回復の兆しが見えてきましたが、世界各国で依然としてコロナ再拡大等の不透明な要素もあることから、当社としては今後の市場の先行きは慎重に見ています。

足元ではコンパクト製品は特に北米などで回復基調にあります。コンストラクションにおいては、中国以外でも地域により回復の兆しが見えますが、現時点では様々な懸念材料を考慮して、本格的な需要回復は21年度後半と見込んでいます。マイニングについても、資源価格は上昇基調にあるものの、市況の本格回復は今後21年度後半と見えています。足元では回復が徐々に見えておりますが、小さな機械の引き合いから回復しながら、大型機への本格的な投資の回復へと徐々に繋がっていくものと想定しています。